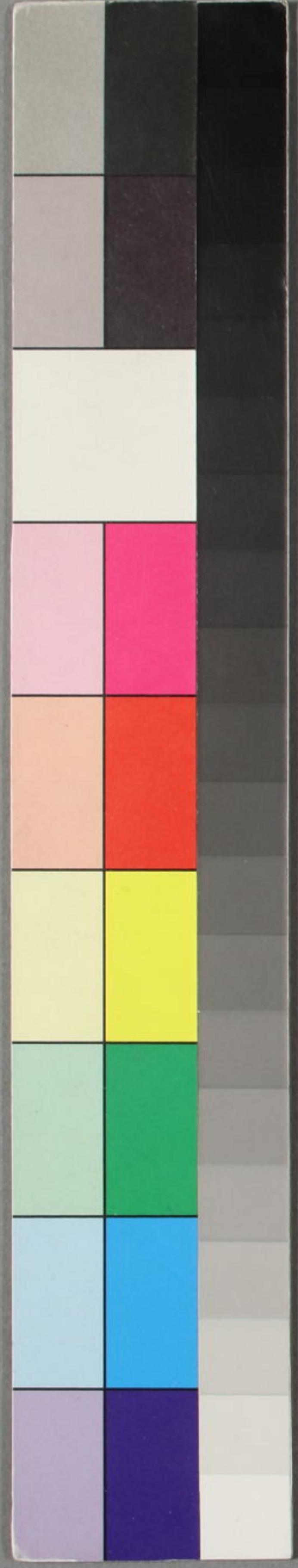


蕭霞父古集 全

和装本

848



多々々々。うねり。さして。せめて。先生は
 中ねり。言葉。此。端々。記。たる。及古や。
 又。敵等に。人来て。回。先生。答。の。を。い。わ。く。
 お。目。志。し。たる。何。ま。し。と。記。て。言。中。たる。
 及古や。亦。我。先生。曰。曰。言。及古や。
 又。人。来。て。回。曰。あ。う。い。う。む。の。中。ら。
 せて。言。中。たる。及古や。色。々。々。々。く。取。
 集。て。予。が。遊。と。知。あ。う。い。う。の。り。ふ。と。又。

同志の門人童蒙初。人乃。い。ま。と。れ。
 ま。い。て。たる。と。成。志。毫。救。護。した。より。此。端。
 とも。思。ひ。は。は。り。十月。廿。二。日。に。後。果。
 形。里。臥。し。命。を。た。れ。さ。か。つ。る。主。は。洗。口。持。し。
 一。い。わ。さ。し。び。あ。本。に。さ。より。朝。小。道。と。い。て。
 夕。ア。に。死。す。と。い。ふ。予。好。る。主。は。語。と。記。護。而。
 戒。沐浴。して。筆。と。さ。る。あ。が。は。は。り。あ。い。
 と。と。う。の。ま。い。り。か。い。り。と。い。ふ。志。と。い。ふ。

卷之二

一 終ハハ一ハハありてハハ返ハハ之ハハ候ハハ

一 丈ハハ熟ハハねりハハ人ハハとハハ言ハハふハハ物ハハのハハ候ハハ

一 物ハハのハハうハハこハハ孔ハハ子ハハはハハ子ハハにハハ子ハハ後ハハとハハいハハふハハ候ハハ

一 女ハハ小ハハ三ハハ從ハハのハハ道ハハありハハ候ハハ

一 子ハハ共ハハにハハ養ハハ育ハハ振ハハとハハ教ハハふハハ候ハハ

一 或ハハ武ハハ士ハハ養ハハ父ハハ實ハハ父ハハ口ハハ論ハハ及ハハ小ハハ刀ハハをハハ切ハハむハハ候ハハ
一 孝ハハ乃ハハ道ハハをハハはハハくハハ事ハハとハハ問ハハふハハ候ハハ

一 今日ハハはハハ勤ハハ方ハハ社ハハのハハ悟ハハ道ハハのハハ事ハハとハハ問ハハふハハ候ハハ

一 人ハハのハハ心ハハをハハ切ハハりハハてハハ甚ハハ者ハハはハハ亦ハハそハハのハハ事ハハとハハ問ハハふハハ候ハハ

卷之三

一 祚ハハ至ハハ保ハハ食ハハ神ハハのハハ事ハハとハハ問ハハふハハ候ハハ

一 或ハハ人ハハ東ハハ老ハハ子ハハ經ハハのハハ折ハハとハハ問ハハふハハ候ハハ

一 或ハハ問ハハふハハ人ハハをハハ奉ハハふハハ人ハハのハハ親ハハをハハよりハハ行ハハふハハ事ハハとハハ問ハハふハハ候ハハ

あつちの道に今も極小して文並事と同之候

一 幽身にありて早なる源を實情たる事と同之候

一 凡人をよき物の靈乃候

一 或は去方来麒麟八聖人と知て出作れ候と同之候

一 神道佛道儒道道と教人をとて 勤容周旋

一 大人ハ赤子ハ心とす一なるにさるよと問之候

兼設反古集卷之一

八歳まで母は後まより善根心志れ候

柳菰八歳小して母にお守。其柄柄母れ追善小。天

台坊主佛花小。白ひ。昼夜法華經のる令せば。と坊主

れ後回ると色々とゆげと好してらるひとを。と坊主の

り共。まもく志をまよきやる所也。是ハ母の能事といれ

りるに濱か。縁文ありとて。此ハ縁坊主にあま母れとて

強きよ人。其功德とて母れゆき志をたへ。と心たへ候

の至魚肉とたへる所。と縁をたへた。又と縁春屋並事と

清きよ事とて。此ハ縁をたへた。又と縁春屋並事と。縁

多きなりけり。父甚氣さうと云てあて。ゆり一人
 かしと然は世取にをきと申す言葉も形かま
 これいふゆらふとや十四歳に成ぬ世より娘は致度
 申す其節父は何ともいふは春屋も片
 穿我小向く申は先一度級よつと行内成とて御
 ておまゝ成は後よと申合は得ともその返答せり。
 かくして夜の間に。髪と切て床中せば。父を始けん
 ぞくたきと身てあんなつけと申すものもあつた。とや
 かく申すや十五歳に及ひ。何とも髪とてせけと夜

と着るせ山寺(造形)の勢とをいふ。父小
 ひとと。その返答形。誓くわつて父申は抑は母
 小ねくまで。このうとてんま。習は強ひて後物は
 せびつとて女形。ま事いふ。ま上益疾佛神と
 るがまそのいともいに男とんごあや。あうにらうは
 減は海いのけは様あり。さうはどの福ひよまうせ尼
 寺(きいとも)人三日とほ。ま中ら後とりの我これと
 守より思ふハ。いまをたはと。けさ衣と着る時
 へんまをとれぬ。まより父はまて人をと頼はくと求

尼寺あまのやうれやうととに中ちゆうには京きやう薬やく師し中ちゆうとれとけりこ
 尼あまちちりりとす及お父ちちと隠てまらり尼あまとり人ひととす父ちち
 よびくせともかつとまとのがんとて薬やく師し山さんときりし。
 自みづか秀しゆうとり尼あまのま子ことり暫あや屋やとしとまらり。
 とみぐく概がいのま志しとして唯經きやう文ぶんをよくよみ。
 孝かう者しや也やりの度た思し心しんたんく暮いてと桑そう恩おん昧まいは
 て中ちゆうとまふいるまがく誰たれ者ものてもふいるま免めん教かうとも
 くもけり。我われ思しふく。何なにとも能よく教かうてくも人のけを須ん
 也やといんと尋たづねいたまよ。何とも人ひと道みちに困はる道みち有ある泉
あふこのうゑささるん泉

庵いん栴ぜん谷こくとの子こ尼あまとくがくとて晝ちゆう夜やをまり何とも
 能よく教かうくも人ひとのけを須んと我われとりて自秀しゆうとの子こ肝かん道だう
 中ちゆうて眼をとし。度根いこ正しやう法ぽう寺じ村むら栴ぜん谷こくとり尼あま經きやう文ぶんをよくよみ
 まり法ほ華け經きやう禪ぜん録ろくをよくよみと無む門もん關かんと云
 書しよに世尊そん昔むかし在ある靈山りやう會かい上じやう曰いひ吾われ有ある正法しやう眼がん藏ざう涅ねつ
 槃えん妙めう心しん實じつ相さう無む相さう微び妙めう法ぽう門もん不ふ立た文ぶん字じ教かう外がい別べつ傳でん
 付つ囑しゆく摩ま訶か迦か葉えつと云諾だくを見て予也や悟ご道だうて迦葉えつ
 小こもらるまうと思しひ心とはく概のし也やとと。
 中ちゆうく師也やとも道だうのやともて志れは行ぎやうとも也やり

たぐ思ふ心より一日一夜断食とてえり時存ても
志てえり。石山寺七日七夜断食して籠てゐる事
えり。佛の教とたつてゐるとえり。二子佛を
三日二夜は禱しゐる事とつり。そのほろ。さま
親行よ心とほつてゐると筆を棄山しはつた
或何の疾をく人あぬぬうにそ。川へ下りて水と
とつて神と祈つてゐるととつり。知識とつては
け方と。お禅志る事とつり。外難行苦行とつり
つては。はつてゐるとつり。おつては。はつてゐるとつり

思ふ道と教へ悟らしくも命あふ。命をけつて
自性得心したくも心と若くむれり。父母
おつてなげきてもかつた事。あつては。おつては
むかり那つと。ま病身小成。おつては。おつては
京六角堂に前小店とつり。これをと習養生とつり。甚
所小居。我悟道して。父母乃成佛を眼前に見て
今命をたつて何をも思ひ残さず事にあつて
おつては。おつては。おつては。おつては。おつては
トル。石田勘平とつり。儒者つり。世と掃人して縁

の海人一人を正道の導給ふ人ありといふ。我因茲ま
 かりて入まば。朝海の論語亦夜漢の山姥の海のかげを
 至て有難さ意味相中と癡うる事あり常ありぬ
 人の授ふといひ由身まねる打って。河海の極子を羅
 入れり。いふは大聖賢人も世に在ましくも人
 け人またあり。教ふより修むる一入まども積めはく
 ぶして中々こまこと落着志が。我思ふは早程徳
 のそねりり。海に付國小なる魚も。けあまを取得
 ずんべ一生自性を得る事。わらまうぐとれり。場所

姉が小路と岡本村平助と中人を言ふ石田先生乃
 門才也。はげ愛と取仕切是ふて修むるいふまよ。
 平助夫婦のろた進めやにまさせ。二宮さまはうさ
 取給食と断ちんざり小水とらせ。昼夜水とらひ。
 又まう一心と盡しあ方もはるま。がうせんこいて
 居りり。これよくと。吹雪風小思もは。我方を
 うすあふて。古今愛減小のびり。全體そのまの
 家たふ事と。ほうあつと知所りり。在難事と
 面白事といは。おさるの文定せり。大高君は父母ハ我

身にそつて清き小守神と歳々海子。親の心を眼
に糸より事なり。のりかき。骨髄小徹しり。一人の
門と開は法界なる事。国土佛といふ。面白く。柳ハ
みどり花ハ紅ちのましく。法とく。空小。面白き
天れま。さうね。信心。堅固小。修治の功積。志強と。
ゆきこと。つらば。圖表の忽小。明。一。天照然として。
明く。多げ。ほど。て。神儒佛とも。に。自性と得ん。ま
と。要らぬ。先佛法に。あつて。云。内ハ。天台宗。止觀也。
いひ。真言宗。阿字。本不生。云。禪宗。本來。乃

面目云々。念仏宗。入我我入。機法一瞬といひ。
日蓮宗。妙法と云。神道。神明。又々々
自己れ。神とも。中ま。極小。名んか。
も。修治。熟して。至。所。一。なり
ワ。もの。なり。れ。る。は。り。也。
か。ね。小。月。と。り。り。那
心と。と。ん。と。お。り。人。心。静。小。て
法。座。と。好。て。よ。ろ。づ。の。善。多。と。空。者。の。者。を。是。行。者。を
と。明。言。授。ち。り。ぬ。る。は。終。に。其。至。に。ぬ。る。也

神儒佛の流を多しといふは佛の世に殺可
れ申る事也。其宗旨は此教を穿たざる。人
のまじり申ふ事あり。あやまりの事あり
の事ありて賢小なる事あり。いのちあり
ふは、人の。我より顔小人を真に欲ん
の事ありて。形人なる事あり。心あり人
の事あり。あやまりの事あり。佛菩薩や貴聖小
の事あり。地獄の果あり。ことありて
貞純親王賢曰。天道は、いさより好む人毎
て

夫はよまるといふ。道あり人事を勤て後
小天なる事あり。人事を勤むるより
らぬ。むとく小天の衆人なる事あり。玉つ
石田先生は心ざり。都鄙齋家論を以て。石
の事あり。自然小感應を以て。石
の事あり。たいていよて中くあはれ候
人あり。これあり。徳とて徳とて。徳
の事あり。只忠孝の道とて。人の人たる事
教を以て申す。つとねあり。心あり。毫厘

省ごもや。死てもより一まじしより一天のたまりん
 ぶとに心も掛るこの答もなり。時ふまうせて居る
 る酒。多活然るくより一ヤ人なりよめて。我ら
 多めてすく裁つ。生るるおで。百よ七百八百九百又
 一會夜ふ。ふむ百程も。まゝふふ日とらるる
 ちりたる大数らげていふこと。元沙年まはりり
 十方二子五百程なり。其初ゆり。修順波ふ及び先
 生七回忌善持れぬ。吾妻の都まで。経傳英づま
 るお先生自の都郡回言同海つとも。有能

道の行のまじんとさるや命なり。まじまじんとさる
 や命なりと。吉人よれまじり道小志まじ人世とれ
 ころよかりるごもや。性我を道まじ大星と知る。
 かられらるよりらるるこいあ。心慎庵と事
 或人の曰。きよれんを女と山師と云ふものあり。いひ
 よりや。我の答曰。世の人こと山師といふも山師なり。
 辨者といふも多者あり。竹ふかひあぐもや。以
 後へ心慎庵と事なり。門中をききて曰。柞より
 海釈うけ玉つりや。其の聖賢の意味深長なる事

だんてがいにさころり有難くやうけしを後
 人の心を直す。忠孝の道とほくまらる。教と師
 こつふ。嗚呼る善い哉と云。礼を聞て曰孔子
 君小禮とけし玉。母の人魚のらめのと非
 まらむ。論語にあると云や。大聖孔子の徳よたを
 かくのとうし。いんや虫の敷よと今に我ら會と
 の降よ流る事。たもらるるさゆなりや。と
 評よと流る事。滅よ我がまらして必後之慎
 て。ちよびとねぐと。君子は徳に徳を教とのなり

易 孔子曰善事とたうはぬよん

必さい日い來悪事とるよとぬよん

必禍來の辰

或人來問曰。孔子易に。積善は家に必餘を
 積不善は家には必餘禍なりと。ゆまの志るに。
 顔淵と云。大徳の君子は負窮よして志ん
 むれ志う。くじたりよとや。ま。徳をたしむる
 んも。つことまらぬれ志るものなり。も徳。い
 心好むよは山に水及るなり

答曰。子路。然。以。ん。ぐ。け。ら。り。か。う。し。の。海。の。種
 小。通。り。し。て。書。と。よ。む。ゆ。い。小。聖。賢。の。ま。ま。こ
 う。と。か。し。聖。人。の。ま。ち。比。方。お。し。る。ん。を。ほ。と。り。て
 心。と。志。な。り。ゆ。い。小。心。の。欲。と。ほ。所。小。志。か。り。ゆ。い
 不。踰。矩。古。今。不。易。れ。法。と。な。り。た。り。ん。と。得。ん
 せ。ば。何。ぞ。い。ふ。い。わ。る。ん。と。や。

曰。汝。を。頸。を。も。り。て。回。め。ん。實。は。ほ。る。ま。ま。い。こ。し
 と。ら。る。べ。し。一。向。我。言。不。回。め。し。て。か。を。ん。の。い。か
 め。ま。し。と。い。ふ。め。い。ひ。く。か。う。と。う。正。直。な。ら。ん。と。お。ぼ。す。

孔子と知る事ハ。あるとせよ。あるとせよ。あるとせよ。あるとせよ。
 とせよと。子路小教玉よ。わらわらや
 名古の言といふは事ハ。身れ及ぶるをば
 てなりと。慎むといふ事ハ。多し人をして。とせよ。
 先賢の人あるらんよ。一人の富貴して病むるあり
 食物の味いと多し。ふぐらふと。くらうと。とく
 とも。腸の苦み。火の中。居ると。目赤よ。
 地獄の苦といふ。あやこ煩。會々。後。苦みすれ。るも。
 止事なり。又一人ハ。貪る病むるも。と。いふ。事。

にして心ゆく或が。職分と勤。食の事。其の
 に味ひ我多限ふを言ふ。貧富よ。んぞう法
 事。事。是れ。く。て。ふ。よ。く。樂。年。月。を。お。つ。く。人。の。り。
 そ。も。成。婦。ひ。ぬ。や。さ。う。言。い。て。病。身。に。あ。り
 若。か。ら。が。ひ。と。思。ひ。ま。い。り。や

曰。財。寶。の。才。を。樂。ま。し。ん。が。お。あ。る。ん。と。思。う。に。物
 才。に。な。り。く。と。煩。う。行。が。心。よ。り。樂。ま。る。は
 り。ん。困。窮。し。て。し。る。の。困。窮。よ。心。を。さ。う。し。て
 事。は。お。く。樂。暮。さ。ば。い。う。ぬ。り。寤。も。早。に

ま。さ。ら。し。め。り。

答。然。る。が。善。人。と。悪。人。も。是。に。無。異。事。盜。賊。如。し。と。思
 へ。ん。と。思。ふ。と。思。ふ。れ。居。者。の。り。と。思。ふ。お。ろ。う。な。り
 我。が。心。事。を。事。が。お。し。も。さ。ら。う。と。思。ふ。人。の。り。を
 ね。ど。を。お。し。は。け。て。も。さ。ら。う。は。お。も。て。も。さ。し。我。が
 れ。も。お。し。お。い。か。と。さ。ら。う。ら。お。苦。こ。の。よ。お。お。外。お
 ち。ら。お。お。の。眼。が。ま。た。人。の。お。し。お。い。お。の。お。り。
 け。者。若。す。れ。同。も。事。事。お。い。病。人。の。り。の。ま。い。り。
 た。ら。い。ら。お。い。ら。い。ら。お。い。て。罪。を。ま。お。お。居。る

古今集

うち天官勅曰。人の善悪も。云々。御にまじり
 たり。あるものあり。おれ竹とん。くさんや。人
 は達人を。あとうくま事。天とん。おれ
 ちうて。たづね。小人。あとうて。まこと。ひて
 かのものが。おとまる。鬼神。おて。まこと
 物部大明神と託に

とおれ人。くさん。くさん。くさん
 しけとう。はては。おれ。くさん

孝者来て孟子の性善と。海ま。海の
 或孝者来問。汝が師の地。都鄙回。見
 せば。今。存。乃。悪に。善。く。く。く
 云。物。孟子。告。子。に。善。多。決。を。人。の
 性。善。を。事。は。水。は。く。く。く。く。く。く
 と。おれ。ま。ま。と。れ。は。是。善。悪。に。對。善。を。見。ゆ。
 物。を。悪。に。對。善。を。見。ゆ。川。合。せ。流。す。
 さ。く。く。都。鄙。は。孟子。の。意。味。也。違。は。れ。る。
 善。今。汝。が。回。答。を。首。石。田。先。生。小。の。者。に。

い。多。の。曰。答。り。り。も。あ。ら。う。面。白。お。り。い
記。お。さ。し。た。ら。う。り。り。こ。も。成。か。ら。う。お。り。い
先生答に。汝。孟子。の。文。字。と。か。ぞ。と。も。成。書。と
え。ら。と。お。り。い。に。意。味。は。違。う。と。成。性。は。ち。も
お。り。い。と。譬。言。れ。意。味。あ。り。と。得。ん。せ。ば。性。を
得。ん。と。と。く。あ。る。問。ま。て。い。い。ら。う。ゆ。べ

曰。喻。れ。意。味。を。舍。得。さ。ら。う。何。事。を。や。
先生答。譬。言。れ。意。味。を。知。と。い。別。乃。義。は。ら。う。と。
論。語。に。仁。者。ハ。山。を。樂。む。知。者。水。を。樂。む。と。

中。の。知。者。と。事。理。に。違。う。と。周。流。し。て。滞。り。ま。ら
さ。ぬ。の。如。く。水。に。似。つ。る。事。は。ら。う。と。い。う。と。好。む。
た。と。い。は。ゆ。ふ。又。仁。者。の。如。く。義。理。小。安。し。て。動。ら
ぬ。地。に。似。つ。ら。う。と。い。う。と。山。に。似。つ。ら。う。事。は。り。故。に。
山。を。好。む。と。た。と。い。は。ま。ま。依。體。の。知。難。と。事
と。も。と。い。う。と。知。る。と。成。る。の。譬。言。あ。り。と。の。理。と。お。り。い
孟子。の。性。善。と。か。ら。う。と。い。う。と。ち。よ。は。と。な。り。と。い。う。と。
端。を。求。め。知。ら。う。と。い。う。と。と。れ。は。な。ら。う。と。い。う。と。悪。は
對。せ。ら。う。事。は。あ。ら。う。と。い。う。と。

ありとらふべし。いふはるすむ難なりて。詩作文章
 よ。疎からば。一切経傳小後とと。これの道が。氣質の
 よかざるは。とらふを改む。人のほつたるものなら
 いたるべし。ちかし。城小道。志深く入み
 けし。明は。教道と。知るゆふ。志常。いふべ
 して。終ふ。そのよ。ほつる事。たう。武士の。るを。
 ありとらふもの。ぬまあり。和おれらる。いふて。和
 にぬらや。可れ。道教ありとら。そのる。人
 とらふべし。

孔子曰徳も。修む。徳も。これと。講む。義と。聞て
 徒とらふべし。義とらふと。改事。いふべし。早昔憂
 あり。又曰周公の才之表。たむと。驕且。各志。たむ。
 其餘。の。觀た。る。は。色。との。のみ。諾と。いふべし。
 知る。こと。は。利
 人。あり。その。子孫。と。養育。する。事。は。いふ。べし。ゆ
 づり。と。継。と。た。や。さ。ん。先祖。の。あふ。と。よ。ん。ん。ん。
 あり。よ。う。て。子。孫。の。い。ふ。事。あり。と。古。と。い。ふ。べし。
 あり。と。い。ふ。は。只。教。の。い。ふ。事。あり。と。い。ふ。べし。

悪くも。成長して後。放埒者ちやうちやうちあり。石田先生いしだせんせいを志
小して。身とるるみんとるるぼし。敵と先たかひひ。親おやは祖せんとなり。
和わと行ゆくあり。類たぐひひ多おほし。かやうかやう好このむ。子こはあまあまらう。
ちやうちふ。まゝうまゝれつれつも。あまあまり。さうさうらうらうさ。おれおれはあまあまよ
嬌うして。他人たにんよたたり。ままををううけけて。ここををああままととととい
はる。そのあまあまら。自分じぶんれれたたる。ううたたれれたた。子こ教けいも。
巨おほくくたた。一ひと入い融ゆう化けししてて事こと好このむ。子こををああままととととい
ふ。よよくくとといいててああままら。智ち明めいのの中ちゆうににてて。賢けん者しやとと。成
之おののの後ごし。因よりりてて懐くわい妊にん乃のううちちよりり。方こ持もちよくよく信しんじて。

生なまままおおててののちちらら。直ちよく小せう育いくあありりて。静しづかけけののととてて教けい
養やしやう事じとと。ええ習しゆむむををぬぬるるううけけて。偏へん小せうももののららをを。
ははくくしてて。そそららううるるああままららうう。ままととももししてて。教けい
るるああままらら。禽いん獲とくののももししあありりとと。書しよ物ぶつををとと思おもひひ付つくくまま。
んんののままももししてて。ああままららののああままらら。入いららるるああまま。かか好この
こことといいふふ。ううららままらら。

石田先生いしだせんせいの丹波たんぱ北山きたさん中ちゆうににて。或ある百ひやく性せいれれ子こありり。幼ちゆう年ねん
の向むかひ。秋あき北きた中ちゆうにに。山やま小せう橋はし事じたたりりにに。初はつ粟りゆう乃の何なにもも
事ことて。笑わらふふ居いるるをを捨すてるるまま。中ちゆう食じき給たまふふ向むかひ捨すてるる。

障とちりのぬぐい。かへらるゝみたまのうらみ
 うらみとあらうか。かへらるゝみたまのうらみ。
 あつてうらみはらた。うらみと。うらみと。うらみと。
 る事には生れは滅る。うらみと。うらみと。うらみと。
 むけき川乃。うらみと。うらみと。うらみと。

朱文公勸學此文也。勿謂今日不學而有來日
 勿謂今年不學而有來年日月逝矣歲不我延
 嗚呼老矣是誰之愆也
 古人のかり

明日までとれり。あはれ。後乃。あはれ。あはれ。
 り。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

世のうらみ孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。
 り。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。

そのうらみ。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。
 行ん。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。
 あはれ。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。
 ありて。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。
 恐のま。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。孔子は。

一はむのゆかりのまゝに。あつた。あつた。
 ららるる。あつた。あつた。あつた。
 ん。あつた。あつた。あつた。あつた。
 しい。あつた。あつた。あつた。あつた。
 實に。あつた。あつた。あつた。あつた。
 老て。あつた。あつた。あつた。あつた。
 表を。あつた。あつた。あつた。あつた。
 家の。あつた。あつた。あつた。あつた。
 と。あつた。あつた。あつた。あつた。

女。あつた。あつた。あつた。あつた。
 高。あつた。あつた。あつた。あつた。
 久。あつた。あつた。あつた。あつた。
 ほ。あつた。あつた。あつた。あつた。
 と。あつた。あつた。あつた。あつた。
 ち。あつた。あつた。あつた。あつた。
 わ。あつた。あつた。あつた。あつた。
 あり。あつた。あつた。あつた。あつた。

務つとむまとしめり。人ひと欲ほむべ。私ひそあり。書しよゆふ。惟これ皇みかどたる上帝てい
 衆ちゆうを下民みんに降ます。のゆ。朱しゆ子しと先と本と
 て天より生民せいを降はり。のゆ。この理と見まり
 我われ子こと之も天乃な子こにて。家いへを養育よくと天命てんめい
 あり。天てん命めいと重むら。人ひとに子に慈愛あいと法くさ
 むらんへ。何なんを天命てんめいと受理うけし。於て君
 小ちひさはり。変かへ事。何なんと也。怒おこて人事じんじに於て万
 事じに人と法くさむら。道みちに背事そむ。多おほく也
 曰い一い事じ。人ひとと法くさむら。成なりむら。万ばん事じに

人ひとと法くさむら。定さだめ人の事也なり。人ひとと法くさむら。
 蘇そとらんが。いく。て今もならん也なり
せん先生せんせい答こた曰い世よ俗しよ云い。一い事じが万事ばんじと子事しの子事しなり。子こと教
 けいも。約と本との。重せん人と。約との。失あはれる者も。本
 女にとのゆ。故に。天下てんか國こく也。法と。約との。本もと
 とゆ。然しかも。子と教也。相續あひつむ。約也。本
 本もとともらり。知しらん也。約との。法は。儉けん約やくとも
 あら。法は。よ。よつて行なす。法と。重ん人より也。
 きて。本天てんより。何も十二三さん歳さいの比より也

二十はに。あるまてと。小者や。よ代。同花に。さむ成。
 異ふは事と。あつとつ。又世回より。後突つと。
 事ハ。うらむる事おのり。我の事ハ。世回ガ。重キ
 事。あふが重キとつ。ひ合せて。思ふごとく事おる。
 如何と。他人の口よ。我子と。かあつと。子事ハ。あつ
 事。あつと。とに。苦勞ナセ。能教のらに。まぐしは
 中。決定せり。丈夫よ。親のま分に。あひ。事又ハ
 て。致ハ。父母ハ。孝ハ。家内と。は。人の道とも。あ七
 物と。親の。令に。怪ハ。後者ゆつ。末ハ。あて。親

の。あまに。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 希方に。用んて。教ゆ。急進ハ。末の。福いと。あふ
 ゆ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 設て。回る。この明日まで。
 禁裏に。所能ハ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 こと。云。回よ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 曰。事ハ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 事。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 性ハ。費ハ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

及古集中

二十

る事。多し。早急と。齊し。身を備る中あり。此を。
 子に好くううとせると。善言と。子は。如何なる事か。
 仁ある河にさく石にあり。河に。辱し。あつ。善事も
 だめな事ある。父母れ子と。子善事の。心とひらた。見
 せらる。この事。いふ。悪生者なりとも。有る。新
 らあらん。親乃。子とれり。慈仁に。あつ。れ。そゆ
 りのあら。感し。教て。善心よ。か。あつ。ぬ子。あつ。ゆ
 ぐに。親のん。う。わ。さ。ざる。あふ。不孝者。多し。さ
 へ。哀哉。開眼し。せざる。んと。する。教を受。ち。かり

形の上。然ると。常座。おて。よ。格別。の。教。は。い。ふ。心。と。い。は
 ち。の。ち。の。事。と。や

或武士養父實父口論たけなす及生なまの力と
 切じと。好時。孝の道と。ほ。を。と。事と

問の段

或人來問曰

或武士。化教。養子。ふ。ゆ。さ。善。父。を。中。よ。あ。く
 孝と。ほ。して。ち。り。け。り。ふ。ち。ふ。あ。た。實。父。を。て
 善。父。と。な。ま。に。よ。め。し。け。り。て。ち。の。も。が。あ。る。り。う

今日の勤る方よと母ハ悟るれ道に叶

とと問え候

予習吾素に強なるの時或はせ。問曰。某相及する
言。さあ又ら。たさども。某に。まゝなりとも。思ふに
物ども。若年れらより。禅字にまゝ入。悟道一
つらといひ。そは。も増勤言ハ。能く人あり
よ。よつて。某も今うまゝの西ハ。迷ひとを。悟
つて。いふ。物ども。色こまは。成るる

る。能令悟らむとて。勤る。まけ候と。た
り。勤方よと。生死まで。かの迷ひとを。れ
る。理り。極度。さむ。我師に。た極の
と。問者ら。と。その。さ。か。なる。たる
事。も。ら。り。その。あ。む。と。あ。り。て。先
子細と。師の。師。か。めて。は。ま。り。と。さ。て
也。高。方。と。い。ん。忠。と。は。く。し。之。月。一。て。も。縁。と。の。み
い。の。よ。と。い。は。や。

人の明言とて其者の前をい行く
云ふし其事とらるるのむら

人の明言とて其者の前をい行く云はれ。是
ことなとの有。是又たのまかりと人とも者也。滅
のる。我ありをこと。人う云出いる海。我ありと
おれいふらして。あそ名をわらるる事あり
こと。そ者とて後をらるる事。也れは好を海に
まてよ記まをらるる事。いさねをのそと
昔のゆえ。あまといまめたり。うきもの難に

とらるる事あり。そそくゆる。そそくゆる人より
よ。ゆえの事。あま。我に立てて人をむる
ふあ。只人の思とおのひ。是とそそくえん
也。おらるる事。小人より我に。後初
こと。これらま。直小はのりも。又これ
のそそくありて。中人とてその能事とて人
財をよめて。人欲よれ。ゆえ。たぐ
むらて。むらとて。ゆえ。人よりけ
らるる事。あまといまめたり。うきもの難に

して。何の若れらるる魚もや。裂一こそ。樂一
こじ。向ふ物也。天を望。天母寒暖冷暑有て。四
海仍のま葛物と。生一枯とがじ。是も天地と佳と
合せぬふ西あり。己よららるる西子。藥如ふと冬を学
問の佳は依て。其意味とあり。何こそ天徳ぬいん
事と頼ひにまむりのるま。

古人の分ふ

うーあさううはさるるむらうふあいらん
うーううううううううううううううう

んはん人のこととあつる道。あ又天母に何事とそに
うーううううううううううううううう
おのましく。職分とはとめて。人教の私務をづく
あさうううううう。公の道とありて。人事と勤め
て。後天命令ぬまらうまはば。はとあおこるはばして。
ようううう。天の還人好らる。あさうううう

五古集卷之三終

兼良反古集卷之三

神主保食神の事と論ぶるに反

首或神を来。石田先生に問。汝が作する。都鄙同を云と云

バ。保食神此事と云つる。保食神首と云くして。因にむ

い。一。利口あり又穀也。又海に饗ふ。魚鮓はより也。又

ふよむ。一。一。禽獸はより也。よの保食神の口と云。い。云

い。と。子。ま。ま。を。食。り。と。云。至。神。道。の。傳。り。し。と。云。云。也

ま。一。一。何。も。の。家。より。傳。へ。又。一。註。釋。と。見。て。傳。り

せ。と。云。い。し。也。委。物。沿。り。也。家。家。に。傳。達。さ。る。所。小

女古集

相合あひあは作しやうけあるりのり合あ度あい

先生せんせい答こたて曰い。保食神ほくじかみれ事ことと云いハ回くわん言ごうよ聖人せいじんの

智ち恵えと小人こじんのち恵えこい。格く別べつよりりりらるる。有あ極ごく

よらひて。回くわん者ごうらるるあに。其こゝろ言ごよりいいでたるる。聖

人の智ち恵えとても。光くわん明めいらるるものももらるるにむふ

りのと曲まるる松まつと直ち小せう慈じとて後のどくりらら哉

聖人の智ち恵えといひやと送よるに口柏かし子しい案て

保食神ほくじかみのとよちよくのま。えままの國くによいいざ

あいざらいざらい陰陽いんやうの兩神かみ天てん地ちのるにあた

まいて後春しゅん復ふく秋しゅう冬とうと。周しゅう流りゅう一いっ行かうハるとま一

少せうとるまたりあり。いざらいいざらいさあのの御ご子こ。天てん照しやう

皇こう太たい神しん宮みやにて。おりままと。よらつて祊ほう代だいのまと小

天照てんしやう太たい神しん天てんのと在ありて日ひ葦あし原はら乃なり中ちゅう國こくに保ほ

食じき祊ほう有あり。月つき夜よ見み尊そん小せう少せうひて候きこと。のたり月

夜よ見み尊そん。勅しきつまとうけて。降くだつま。已ま小せう保ほ食じき神かみ乃なり

許こよ到たりよこ母ははとり。五ごとぬて曰い是こゝハ陽神やうしん

霜しも月つきより太たい神しん宮みやの祊命めいと受て。四し月げつままてに

陽やうと一いつ陽やうづらりる日ひ是こゝいで地ち上じやうよりちとに

のちまたの五月よりぐんくも地トぬらりた
 りよと云。又神代の巻小保食神列首とめらして國
 小むらゝ志うべ。さるち口より飯也。又海にむらゝ
 別鱈いしれ廣ひろ鱈の狭さまのりも。又山にむらゝうべ。
 別毛けのりのりの毛のれの葉は。ままいいののりのおのとと身の之のりの。魚
 らぬて曰い乞いハ。陽神やうちの神宮ごんぐうの神命かみと受て。天あまに乃
 びりたまひ。五月より一陽神やうごんつの地ちト小こららなりふ。
 陰神いんごんと又太神宮たいごんぐうれ神命かみと受て。五月より月つきに
 一陰神いんごんははいいちちまたりふに。むらゝ和合わがひ一たまひ

て。國くにも向むかひたまへ。五穀ごこくと生なじ。海うみに向むかひたまへ
 魚類いさなと生なじ。山やまもむらゝいたまへ。魚類いさなと生なじ。玉たまふ
 不ふあり。又神代の巻まきに。保食神うけかみのり吐出はきだしあふ
 而しかのふののめのとああららぐぐををと受て是こゝとと白しろれれ小
 行ゆてて惣そう食じきままいいるる。この月つき夜見よみ尊みこと念ねん然ぜん流りゅう絶たつて
 曰い穢け矣いハハ中ちゆういいれれ。寧なららずずのりのと以もつ我われと
 事ことのりのんんや乃な劔けんと被おほて。ううちち穀こくつつ。志こゝににててのち復また
 命いのち見みたた。まま事こととと言いひひ同どう之のりの。君きみ解とくて曰い乞いハハ九月
 十月じゅうがつ、陽神やうごんハ太神宮たいごんぐうれ神命かみと受て。陰神いんごんと又また一

代て陰のまのよ。よつて陰神天地の間子盛にいて為
 物と枯一教とと月夜見神念然て劍と後て
 擊手教一さりふも云。こつてに云陰神陽神へ伊
 弉諾伊弉册の。兩神れ未流あるとと。伊弉諾伊
 弉册れ神とへ別あると。譬言べ源家の清和天皇れ王子
 六孫王あるとと。信下の家とあるとと。如一あて
 云時へ根元ハ國常立尊あると。八百方神と。分玉ぬ
 事と。譬言て云。こつて一本れ果本らんに。その種ハ
 國常立尊あり。と枯と枯て苗二益とあるハ。いざ

るにいざるこの兩神の如し。二葉乃中よりんれ出
 ハ太神宮れ如し。そのんの本よると枝葉千萬あると
 數万とあるハ八百萬神れと。それ枝くみ果成遂
 るハ。保食神の如し。その果熟して。零落て地よ入
 不ハ月夜見の尊劍と後て擊手教玉ぬがと。其種
 土中らるハ又國常立尊とあるがと。ハの理と
 推て見るハ。國常立尊ハ。古うに。こつてはて在
 玉ぬよつて今に在て萬物と生れ。よ。よあど大地
 より開さる。保食神のいあり。よあ物の種ハ國

日汝古より傳つたへしとてあまて傳つたる道みちと。そあるあ
 ざけるハ。如何いかうある事ことをや。汝なんぢ云いふを口傳くつたり註ちう
 訣くわうよよつてあるにけり。且かつあまにけし求もと
 て身みよと云いふより末すえなる事ことハ。は若わかく傳つたるよと
 曾くわる事こと好このむ。是こゝ偏へん見けんよりけり。其その邪よ見けん
 と云いふは如何いかんと云いふ。如何いかん
 先生せんせい答こたふ。汝なんぢ不得ふとくの事ことある哉や。人ひとより傳つたる事ことと
 る傳つたるゆへに。摸ふに落おちて知しる命いのちを。我われ傳つたると云いふ
 人ひとより傳つたるよと云いふ。是こゝも主しゅ宰さい一いつたりよ

天照皇太神宮より傳つたるあり。よの故ゆゑに唯ただ一いつ津つ屋や
 と云いふ。人の傳つたる事ことを云いふにけり。仰おほむ事ことあり
 傳つたる

或人あるひと来きたり老子經らうしきやうの行ゆき一いつを問との伝つた

或人あるひと問と曰いふ老子經らうしきやう曰いふ。聖人せいじんの云いふ。受國うけくに之の垢けつ。是こゝ謂い社稷しゃしやく
 の主しゅと。受國うけくに之の不祥ふしやうと。是こゝ謂い天下てんか乃すなはち王わう也なり。お
 けり。垢けつと受うけ。不祥ふしやうと受うける事ことハ。如何いかん様やう二に受う
 義ぎ二に也なり。但ただ一いつ聖人せいじんの教けう小せうかよりて。是こゝも受うけるに
 也なり

有ありいそりた。儉約まこと命。道中と。石背作旅
 に。い。た。く。出。る。を。か。が。い。し。申。す。或。は。代。小
 者。下。女。を。出。入。働。き。さ。ら。せ。の。こ。も。等。い。あ。り。ま。て
 親。本。や。名。本。より。見。障。と。て。在。席。の。名。物。杯。持
 ち。一。申。す。申。す。奉。人。申。す。申。す。出。入。申。す。者。ま。も
 頼。こ。毎。の。い。し。ま。持。直。候。バ。受。遣。返。れ。せ。ら。と
 也。然。る。魚。ぐ。い。や。但。一。頼。ま。も。筋。と。し。て。交。る
 理。の。あ。り。事。の。い。や。受。る。事。の。あ。り。理。あ。ら。ば。返。れ
 ば。ま。る。ぐ。い。や。世。不。決。定。改。し。が。う。如。何。し。て。然。る

魚ぐいや

加。振。を。い。事。も。道。中。で。一。法。の。我。より。ま。る。ぐ。い
 ば。お。の。け。う。う。嗜。る。事。の。あ。り。今。と。い。ふ。者。二。人。物
 る。い。に。一。人。も。親。由。も。欠。乏。あ。る。の。を。ま。る。ぐ。い。お。に
 と。て。寒。お。を。い。ま。ま。ま。る。ぐ。い。も。ま。る。ぐ。い。て。お。ま。が。い。ま。ま
 の。ま。の。あ。り。又。一。人。の。親。由。富。強。者。也。夜。勤。者。也。
 候。と。い。ふ。ら。ら。て。不。自。由。小。者。の。あ。り。富。強。者。は
 京。へ。と。折。ぐ。と。う。我。子。に。達。に。身。付。母。と。産。物。杯。と
 調。へ。ま。る。ぐ。い。申。す。申。す。言。物。を。い。ま。ま。る。ぐ。い。あ。ら。ば。然。る

せぬた。物と度く受くは。程の時と。空淵法ハ。のう
 もがく。是と諸没人より見て見た。信小ハ。草
 づとて。困傾くれば。大なる害ともあは。如何ぞ。
 持受多とれど。見ざり小。受らるるは。たつた
 日。一通相聞作。然もこと。親兄弟。途に來法序に。
 何までも異し。物とわらう如く。推及するは。小
 け。あつた。是非受まひと。いさひ。成難し。免角ハ
 まても返れと。海さ。物と受くは
 答事々。返れさ。は。只受置方より。勝也。返れ

しても受るに。臣か。さることあり。受るに。よつて。
 石にとり。其麻と。告置し。其旨は。親と。おさる
 者ハ。さびく音物と。指さ。主人あるま。返れさるは。
 親本貧乏。小者か。んで。彼まは。富の親と。おさる
 少。さびく。分届さ。日。那殿ありも。受く返
 礼を。と。つりい。我ハ。親直れば。左振る事
 もあつた。おのひ。おから。肩方と。さ。ふと。さ
 へ。悲補さ。早道と。事。さ。う。さ。の。お
 の。おにあり

情も又一なるも。惻隠と。羞惡と。辞讓と。是非と。
 四情と。説王(ども)。仁義禮智。動出物形也。仁義
 礼智ハ。性の一理あり。其性ろ。動るれば。如何。淺深
 有ん。聖賢も。惻隠と。つみりては。痛念を。そ
 玉ふ。羞惡と。我が不善と。知他人の不善と。惡り
 んと。し玉ひ。辞讓と。辞を以て。我とゆはり。か
 ら。他人ふ。後ふ。他人を先とせに。んを盡し。
 是非。是非と。黑白。善惡を明らかに。見分たす
 して。我と人と。分るごとくに。んと盡めよと。以て。

見え。淺情。之故ふ。おに深情と。云事形。我も。
 惻隠の情。羞惡乃情。辞讓の情。是非の情。動出はこ
 とハ。聖賢小替ると。おも。こ色を。聖賢ハ感たさふ
 随て。直に。無じのひ。惻隠乃直して。直に。無を折
 たす。羞惡の。不して。我不善ハ。は玉ひ。人の不
 善ハ。鏡。物と好まご如く。明らめて。是とと
 さけあふ。辞讓の。不して。辞を以讓退し。人の不
 善。身と以て。人ふ後あふ。是非の。不して。人他
 限も。善と惡と。分るる。天地黑白の如に。見

思ひまゝに。石にありと。是れ水魚。明分らんと。勉え
 む。只今發一念と。曲々計勉えん。譬。日月傷む
 者。一日れ日用貨と。夜日と。請取と。勤と。に
 ほと。つと。ゆと。物ありん。譬。去つ。一日れ後
 と。して。脚。二条。橋。四。二。条。堀。の
 所。所。足痛。是。乘。と。雨。小。毎。二
 十。後。で。は。是。の。物。見。け。て。百。二。十
 後。も。履。ん。と。時。悪。心。生。て。目。闇。と。
 苦。と。行。脚。は。に。り。ま。や。明日。日。致。て。足。痛

頭痛し。履きと。て。醫者。と。百。二。十。後。の。代。の。利。ありん。
 とい。今。て。見。ま。げ。百。二。十。後。の。代。の。利。ありん。
 然。も。と。と。か。さ。し。て。行。と。は。と。む。あ。と。以。見
 也。精。の。教。小。随。て。行。と。勉。ま。る。と。の。惻。隱。乃
 一。事。と。行。む。盡。皆。實。情。に。あ。ん。皆。同。情。と。あ。ん。
 何。と。虚。實。と。分。ん。や。只。我。情。と。行。む。り。あ。て。な。ん
 古。負。子。と。云。か。ん。あり。大。因。左。京。左。義。隆。の。書。形。り
 也。と。は。い。そ。人。乃。つ。と。を。志。し。れ。り
 心。ひ。し。る。を。志。し。り。ん

こまひ。け我發心と。直に清しん好む。こまひ女乃
 身のと。史の妾れこと好む。奴怒有しむ苦あるよ。
 義隆朝にありて。浮國おをささ。清うひて。たか
 こと。妾も。清うひらふ。かあこと。急て。身と
 はと。人のいさ。我も。清うひ。我ま。清うひ。清うひ
 せ。妾しん。回。一。か。ひ。かり。せ。ば。遠
 う。んと。清うひ。志。誰も。如。操。只。有
 度。こ。う。な

凡人と我々の靈乃

凡人。我々の靈と。我々に。生れ
 らし。皆。天。の。子。也。物。と。我。子。と。一
 せ。して。其。親。其。母。を。よ。く。せん。也。母
 に。夫。乃。子。を。い。む。の。也。夫。乃。子。を。い。む。の。也。
 こ。一。たり。也。人。の。中。に。後。有。福。の。こ。う。り。の。也。
 也。生。れ。る。も。つ。り。あ。れ。ん。が。人。と。い。む。も。同。也。
 こ。痛。る。ん。と。い。ふ。も。あ。れ。ん。と。い。ふ。も。同。也。
 め。ひ。の。常。也。驕。奢。盈。歎。の。殊。あり。と。い。ふ。も。

一の舞への。天子をたりち。もまひ。四海沸腹し。仁の
 生ぐ。やうじやうと。あつて。東漢一。こけ。まゐると。
 りて。も。おろく。ちまう。くも。まゐ。文王ハ。
 方伯も。西國と。ほめ。東國ハ。紂王にせむられ
 め。よつて。仁徳曰海に。満ざる人。仁生の夢なり
 岐山ふたぐ。さこゆ。よつて。さかん。さかん。に。鳴
 と。たせし。も。おろく。ろく。と。おろ。孔子と。た。大
 聖在まも。く。さ。天子。より。下諸侯に。あ。ま。で。
 明君あり。國君をかり。おら。し。沛一。ま。は。仁。政。行。ハ

也。仁。徳。也。天子。を。たり。ち。も。ま。ひ。四。海。沸。腹。し。仁。の
 生。ぐ。や。う。じ。や。う。と。あ。つ。て。東。漢。一。こ。け。ま。あ。り。と。
 り。て。も。お。ろ。く。ち。ま。う。く。も。ま。あ。り。文。王。ハ。
 方。伯。も。西。國。と。ほ。め。東。國。ハ。紂。王。に。せ。む。ら。れ
 め。よ。つ。て。仁。徳。曰。海。に。満。ざ。る。人。仁。生。の。夢。な。り
 岐。山。ふ。た。ぐ。さ。こ。ゆ。よ。つ。て。さ。か。ん。さ。か。ん。に。鳴
 と。た。せ。し。も。お。ろ。く。ろ。く。と。お。ろ。孔。子。と。た。大
 聖。在。ま。も。く。さ。天。子。よ。り。下。諸。侯。に。あ。ま。で。
 明。君。あ。り。國。君。を。か。り。お。ら。し。沛。一。ま。は。仁。政。行。ハ

そむくぬやうに。其家自くは。法を其事を用い
 て。朝夕おらうまはく。勤行は長也。も親先祖の御
 高恩也。法を承りて。法を承んで。洋勤まはる
 あり。是より法を承りては。まんぢうの。ちう一
 少。おりの御一

上より下に。いつまでも。おのまじく。日々に。喰育の。
 食育の。皆は親先祖の。骨髄あり。おらるおとし。
 能くは理也。こゝろまて。うゑまじく。殺逸まじりに
 善く。天を承り。法を承る極の。法を承りみたるを

いのちのありま。

龍田大明神宛に。まての貴人。おん人
 あ。免と。初る。地とまつて。まはく乃。非ともん
 よるま。あんぢあ。父母よく法之よ。別あ親を
 印の神明あり。内ららうあり。おん
 のこと。福がまらう。人から家門。らうそ
 い。せんより。ま。おのまじ。固有也。法性を
 して。徳を承りて。法を承りて。法を承りて。法を承りて。
 是。是諸家也。つらある。法を承りて。法を承りて。法を承りて。

昔の人。もとあつてはとて。是れ諸宗のりりあり
 及びだ。天下れ神道ありて。神道にたつては
 神明の徳に。あつて。是れ神道。神あり。そ
 の神道乃佳。天地遍滿の神舞ふて。是則
 上天あり。人ふあつて。孝のつね。尊と中
 神道あり。元氣化生乃神と。國常之れ。尊と中
 ちも需。所謂無極之真。二女之精。妙合而凝。乾
 道。成男。坤道。成女。二氣。交感して。化生萬物而
 變化。無窮。焉是則神道也。天地一方物皆神化

不測乃。神明の妙用なり。その神と云ふ也
 それ人其孝とて。最大地の聖にして。万物の長を
 故に五常五倫の道とて。君臣父子夫婦兄弟
 親類明友に。むすぶ。己こが家業と情に入。事々
 物々よこしま。まはる。聖人の其孝なり。孝
 とて。以。全是を。行ひ。海より。天と地との
 こと。合。日月と其明と合せ。四時と其の序と合。鬼神
 と其の吉凶を合。堯王ハ。君の道と書。舜王ハ
 孝の道と。はる。周公ハ。臣の道と書。孔子ハ。

の道は。法を以てあり。大聖孔子とや。是は皆性のま
 ちて。上下天地と。流と回と。聖人の人倫のま
 ちて。是は神道の神の徳に至るあり。仁道とてよ
 生如來と申す也。明理本源乃神の神と人とを以て
 ことごとく。汚穢を淨け。人欲と去て吾が身と
 志の神の徳と直心とにあり。故を信て人れん
 道と以て人れん。己も悟道とて教に云をん哉
 然して。さるるをあらわしむ。心の内に我い
 りるるを以て。高き高きあり。人と見ん。天物

の徳長のるうにあるもの有。其身に悟道とて
 わりよとも。悟道にあり。不正の道にて。か
 ことごとく。道にまゆりたるあり。又よ
 く
 上に聖徳あり。て。曰。海の中と佛心に
 流化中。下方民流通。及て。天下よ
 公は道にあり。是は今神代そのまに。天下泰
 國も安全の御代あり。歳と。在初世の神徳を

惡と無道乃國君とやなり。トこやつ子とんたのりの
 一ももいふまのまにて是像ととまり。右意のまを
 ぞけ。約やうにけい熟味て。志とたをぬく以夢
 と真るに上天の法にふれぐう下け多くも清淨非
 なり。何の災うらん。善哉好。五戒もむ。人の性あり。
 人乃性也拂る時蓄必。うの力に及と云。書大甲篇
 天の咎也災へ。猶可違自作せ。災へ不可活との
 う多なり。神道乃後除と下へ今より我んと。法淨は
 してまのこまゆ。五のむうに。ちうひたま。いふ

一海の。法事なりと云。是則公道とて。さ
 げはなり過て。改むる。たむること。勿れと。論語
 の。文はと見へ信べり。あうれがと教一校と名けて。平
 まえの知へ。若と勧めあると徹一むるお。れ。ゆ
 不直に因て。心止の教なり。迷ひに因て悟ると云
 一なり。邪道に因て正道と云教なり。皆我ら直と
 迷と邪道との病と云せんあり。けはいふ病と
 治むることと云ふ。飽まで食糧に衣。放逸
 あり。人の痛と云ふ。邪乃罪あり。

天罰れくるるをりるまじ。おそろく一擧一ト周礼に
 曰く高きつらむ。痛む。後より。夜服
 と履つ。履つらむ。和暖なれば。後よ。飲食の
 珍し。饑にあはむ。一度飽は後より。又論議
 君子の食飽とを求む。居あらんを求
 むる事。形と。の。け。し。と。知。る。と。予
 師の。し。ち。お。ある。ある。の。け。し。と。知。る。と。予
 け。し。と。知。る。と。予
 大人の赤子のんどう。一。なる。

よーと回の辰

西先生の曰て曰。大人の赤子。れんどう。し。と。知。る。と。予
 何り。一。なる。と。知。る。と。予
 若て曰。赤子の。ち。と。知。る。と。予
 寒とあり。飢とあり。腹も。痛。ま。だ。二。使。乃
 居者。ある。に。小。輿。言。て。も。よ。後。こ。を。予。譏。て
 也。う。あ。ま。だ。親。子。も。も。負。も。せ。だ。地。今。ま。て。も。
 練。畧。も。せ。ず。正。直。ある。前。の。神。は。と。死。む。是。即。無

知ろ聖人あり。成長一ても其心志と基(あ)て。虚
 靈(れい)ふして。何(な)の終(は)つとも其(その)義(ぎ)と共(とも)に順(したが)つ。字(じ)
 成就(じゆう)一たりと思(おも)つるべし。無知(むち)ろ正直(しゆくじき)と何(な)の宜(よろ)し
 義(ぎ)ふ少(すく)く。子(こ)まのつる金(かね)に作(つく)る。譬(たと)へば非情(ひじやう)の草木(さうぼく)
 が。虚靈(れい)心(こころ)小(こ)。情(じやう)と發(は)つる如(ごと)く。依(よ)て万物(ばんぶつ)天(てん)極(ごく)
 ありに在(あ)るが。要(よう)あり

兼葭反古集卷之下終

跋

一教(いっけう)愚昧(ぐまい)と名(な)顧(こ)る及(およ)古(こ)書(しよ)集(じふ)之(の)跋(はく)平(へい)
 竟(けい)無(な)し。別(べつ)の儀(ぎ)にの(の)び人(ひと)と人(ひと)と一(いつ)
 志(し)也(や)如何(いか)とあるまじば三(さん)教(けう)を小(こ)法(ぽう)とす
 而(しか)の教(けう)の要(よう)をを(を)ゆ(ゆ)い(い)する海(うみ)の生死(しんじ)の言(ご)に及(およ)
 びん名(な)聞(き)利(り)欲(よく)を。も(も)の(の)安(やす)き(き)と(と)の(の)是(ぜい)
 と導(どう)人(ひと)を(を)に(に)ん(ん)を(を)律(りつ)して終(は)つる。明(めい)師(し)也(や)
 あり終(は)つる。其(その)天(てん)に(に)冠(かん)の(の)事(こと)に(に)の(の)終(は)つる

世は人の此志と感してこの道とありて農
工高。各正志の道はつじき人とありば
服好くもゆよ。服さう一のうんけ及たを
書集て。又教とある。いゝる世はかここの
う。見る人のうはまらさ

兼葭慈音尼自跋



寶曆六^{丙子}年十一月吉日

京祇園石檀之下

書肆 明井仁右衛門板行

